



2026年3月25日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニックグループ
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証スタンダード)
問合せ先 取 締 役 船橋 泰
<https://transgenic-group.co.jp/contact/>

株式会社トランスジェニック神戸研究所（以下、「神戸研究所」）の閉鎖に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、当社所有の神戸研究所を閉鎖することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 研究所閉鎖の理由

神戸研究所は、当社創薬支援事業グループの祖業である遺伝子改変マウス事業（ジェノミクス事業）と大動物薬理事業を営んでおります。同研究所は2005年7月より稼働を開始しており、創薬支援事業グループの中核施設として位置付けられております。

一方で、近年における国内外のライフサイエンス研究市場の低迷はコロナ禍以降も継続し、とりわけ国内における基礎研究分野への公的研究費の減少等を背景に、トランスジェニックのジェノミクス事業を取り巻く事業環境は転換期を迎えております。また、大動物薬理事業においても、実験動物価格の高騰がコロナ禍以降も継続し、製薬企業及び創薬ベンチャーの研究開発体力を圧迫しております。

当社は、これらの事業環境の変化を受け、これまで創薬支援事業グループの組織再編、拠点配置の見直しによる固定費削減等の施策を講じてまいりましたが、今後の持続的成長および収益性向上並びに資本効率の改善を実現するためには、事業構造の更なる見直しが必要と判断いたしました。

このため、当社は、これらの抜本的な改善および転換を図るため、神戸研究所を閉鎖し、研究拠点の移転・集約を実施することを決定いたしました。

当社は、本決定により、創薬支援グループ事業基盤の強化および中長期的な当社グループの企業価値向上を実現するものと考えております。

2. 閉鎖研究所の概要

| | |
|-----------|--------------------|
| (1) 名 称 | トランスジェニック 神戸研究所 |
| (2) 所 在 地 | 神戸市中央区港島南町七丁目1番地14 |

3. 閉鎖の日程

2026年12月頃を予定

4. 今後の対応

神戸研究所の機能は、事業内容に応じて磐田研究所および久留米モダリティ分析センターへ移管いたします。

(1) ジェノミクス事業

ジェノミクス事業は久留米モダリティ分析センターへ移転・集約し、従来のアカデミア向け遺伝子改変マウス受託作製を中心とした収益構造から転換いたします。今後は、製薬企業および創薬ベンチャーを主要顧客とし、遺伝子改変マウスを活用した非臨床試験等の高付加価値試

験に対するコンサルティングおよびモデルマウス供給を柱とする事業モデルへ移行し、収益基盤の強化を図ってまいります。

(2) 大動物薬理事業

大動物薬理事業は磐田研究所へ移転・集約し、設備・人員・技術基盤を統合することで、施設稼働率の向上および固定費削減を図り、事業の収益性向上および経営効率の改善を推進してまいります。

5. 業績に与える影響

本件に伴う業績に与える影響につきましては、現在精査中ではありますが、上記事業の移管に伴い発生が見込まれる費用を事業再編損として2026年3月期に計上する見込みです。

なお、本件の実行により、研究所の設備費や施設維持管理に係る固定費について年間約1億円の削減を見込んでおります。

今後、公表すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上